

【公共施設再編方針】

令和8年1月27日

砥部町・砥部町教育委員会

1. はじめに：持続可能な行財政運営に向けた再編の必要性

本資料は、人口減少や少子高齢化、公共施設の老朽化、更新といった喫緊の課題に対し、将来にわたって安定的な行政サービスを維持するために策定した公共施設再編に係る方針を公表するものである。本町は、実質単年度収支の定常的な赤字による基金の切り崩しが常態化しており、現在の状態が続ければ数年後に財政調整基金が枯渇する可能性があることに加え、多くの公共施設や社会インフラが一斉に更新時期を迎える局面にある。

将来世代に過度な負担を先送りすることなく、安定した行政サービスを継続的に提供するため、財政状況と各施設の個別事情を精査した結果、この度公共施設の再編を行うこととした。なお、本町においては、継続的に公共施設の見直し、再編に取り組む予定であり、あくまで本方針に記載された施設を第一弾として着手する。各自治体が厳しい財政状況に置かれている中、本町は先んじて手を打つことにより、持続可能な行財政を構築するために実施するものである。

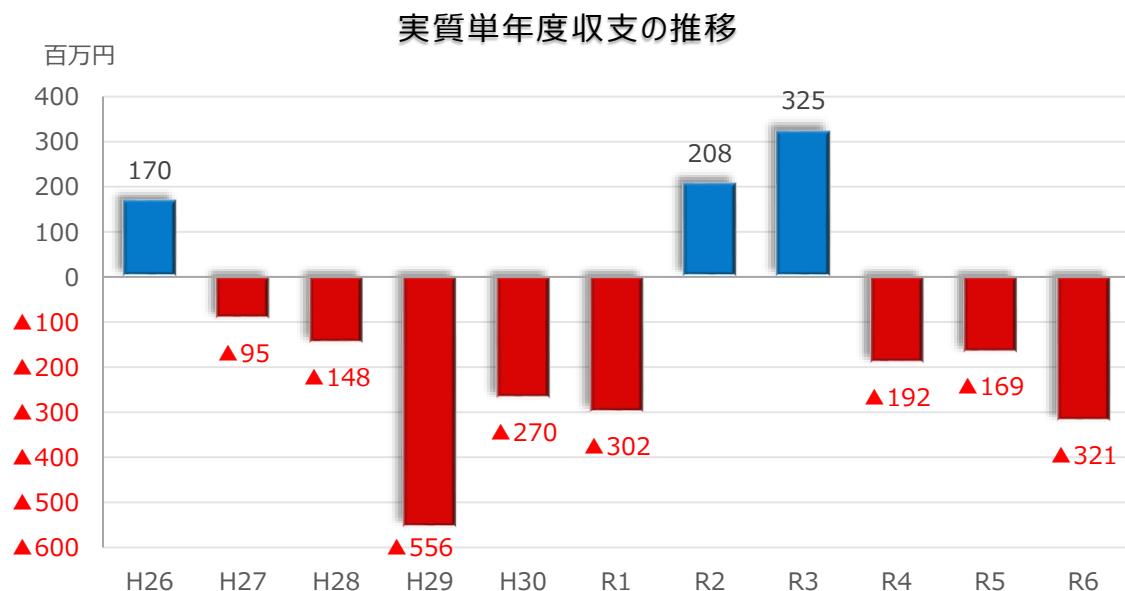
2. 砥部町の財政状況と将来の見通し

2.1. 財政の現状分析

実質単年度収支の常態的な赤字

過去10年間、特殊要因を除き赤字が常態化しており、財政調整基金等の取り崩しによって補填している実情にある。

今後、実質単年度の収支の改善がされなければ、近い将来、財政調整基金が枯渇し、行政サービスの提供に重大な影響を及ぼす可能性がある。



主要基金残高の激減

主要基金（財政調整基金、減債基金等）の残高は、平成 26 年度と比較して約 50%まで減少しており、危機的な水準にある。特に公共施設等更新準備基金が枯済しており、将来的な公共施設やインフラの更新に対応できない恐れがある。



2.2. 今後の財政見通し

- ・ **歳入の減少**：人口減少の影響により、町税等の歳入は減少傾向をたどる見込みである。
- ・ **歳出の増加**：社会保障関連経費（扶助費）の増や物価高騰が、財政を圧迫し続けると予測される。
- ・ **インフラ更新費の増大**：道路、橋りょう、上下水道、学校、庁舎等の老朽化対策には多額の費用が必要であり、計画的な財源確保が不可欠である。

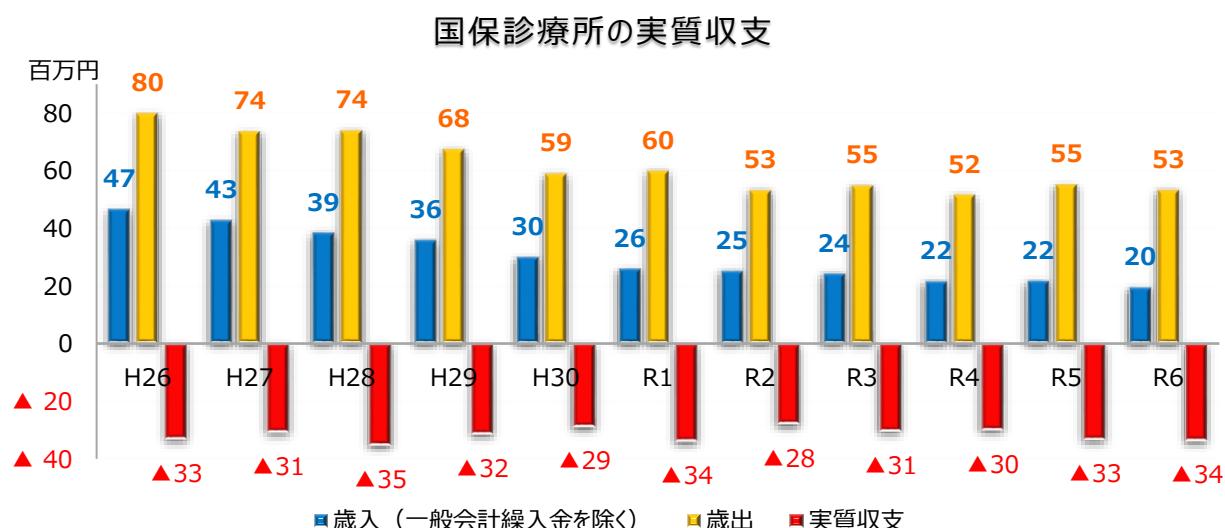
3. 砥部町国民健康保険診療所の再編方針

3.1. 方針

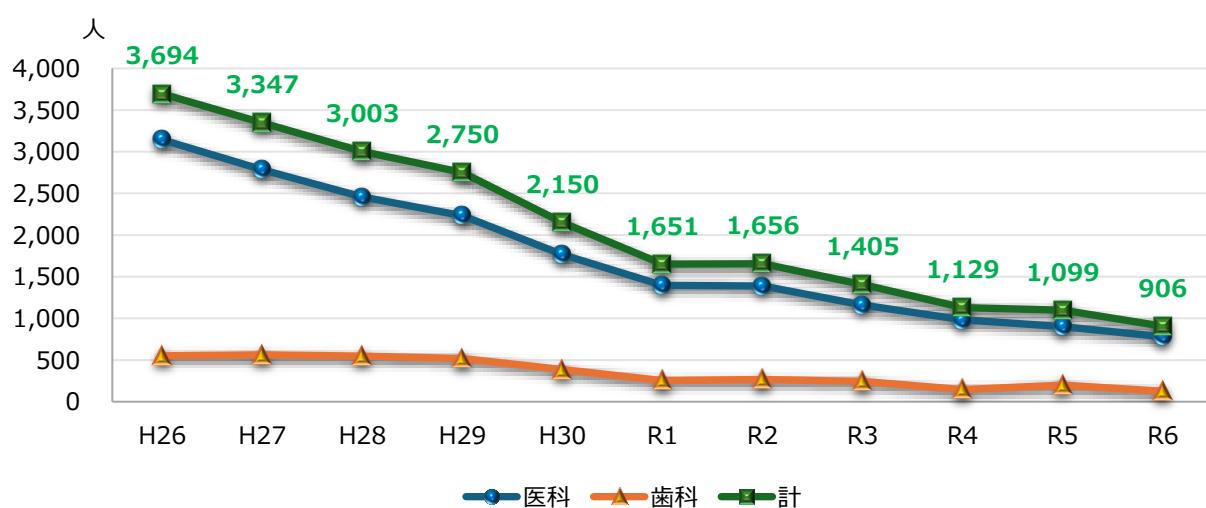
令和9年度末（令和10年3月31日）をもって国保診療所を廃止し、令和10年度よりオンライン診療と送迎支援を中心とした医療提供体制へ移行する。

3.2. 現状分析と課題

- 後任医師の不在**：担当医師が令和9年度末で定年退職を迎えるが、全国的な医師不足を背景に後任確保が極めて困難な状況にある。
- 施設の老朽化**：建物の建設から43年が経過しており、大規模改修が必要な時期が到来している。
- 利用者の減少**：延べ受診者数は、平成26年度の3,694人から、令和6年度には906人まで減少している。
- 深刻な赤字経営**：一般会計繰入金を除いた実質収支は、毎年約3,000万円の赤字が継続している。



国保診療所延べ受診者数の推移



3.3. 検討の経緯

- ひろた地域づくり協議会等への現状説明を実施。
- 地域医療等検討委員会（全4回）において、有識者を交えた協議を重ねた。
- 町内医療機関への調査により、オンライン診療の導入可能性を確認済みである。

3.4. 今後の方向性

- **オンライン診療の実施**：町内の医療機関と連携し、ひろた交流センターを拠点としたオンライン診療提供体制を整備する。
- **送迎支援の充実**：現在運行されている広田のりあいタクシーを拡充し、公共ライドシェアを導入することで、広田地域の住民の生活の足を確保し、地域交通の充実を図る。



4. 坂村真民記念館の再編方針

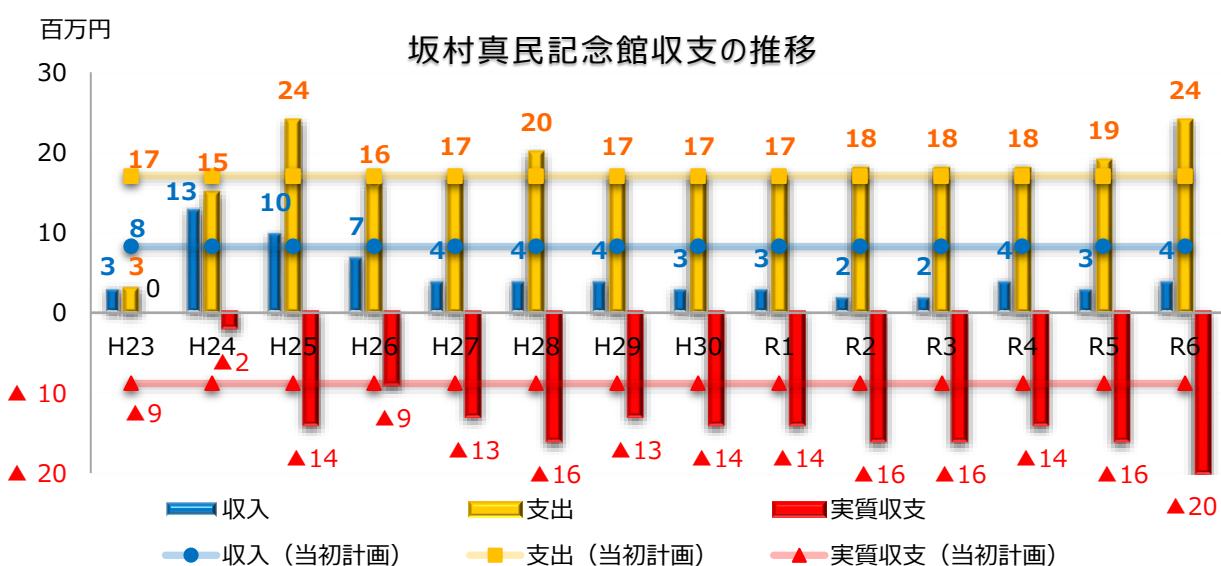
4.1. 方針

深刻な経営状況を鑑み坂村真民記念館を閉館し、名誉町民である坂村真民氏の功績をオンラインアーカイブや記念展の開催等で顕彰していく。

- **展示業務の終了**：令和 8 年 6 月 30 日
- **記念館の閉館**：令和 8 年 9 月 30 日

4.2. 現状分析と課題

- **多額の一般財源投入**：令和 6 年度の運営赤字は約 1,935 万円であり、平成 24 年度からの累積赤字額は 1 億 7,600 万円に達している。
- **来館者の低迷**：令和 6 年度実績は 4,061 人であり、そのうち、2,647 人が有料入館者数と来館者の低迷が続いている。
- **当初計画との乖離**：当初、記念館建設時の目標との乖離が開館以降、継続していた。入館者数は目標の 6 分の 1 と大幅に下回り、赤字額は目標の倍以上に超過している。



4.3. 検討の経緯

- 令和 7 年度から関係者で真民記念館の経営健全化について協議を始める。
- 協議の結果、年間入館者数 6,000 人以上、15,000 千円以上の歳入を目標値とする。
- 歳入確保のため、入館料の値上げ、商品販売の多角化、入館者確保のため、事業内容の多様化について検討する。
- 記念館館長から令和 7 年度末での退職の意思表示があつたことなどを踏まえ、令和 8 年度中の閉館を決定する。

4.4. 今後の方向性

- **顕彰事業の継続**：本町の名譽町民である坂村真民氏の功績を後世に伝える事業の継続を前提に、デジタルミュージアム化や町立図書館での関連資料充実等による、新たな顕彰の形を構築する。
- **施設の活用**：当面は、砥部焼磁器創業 250 周年や国民文化祭等のイベントにおいて活用しつつ、公共施設の再編やまちづくりの調査研究の結果を踏まえながら、持続可能な活用策を継続して模索する。



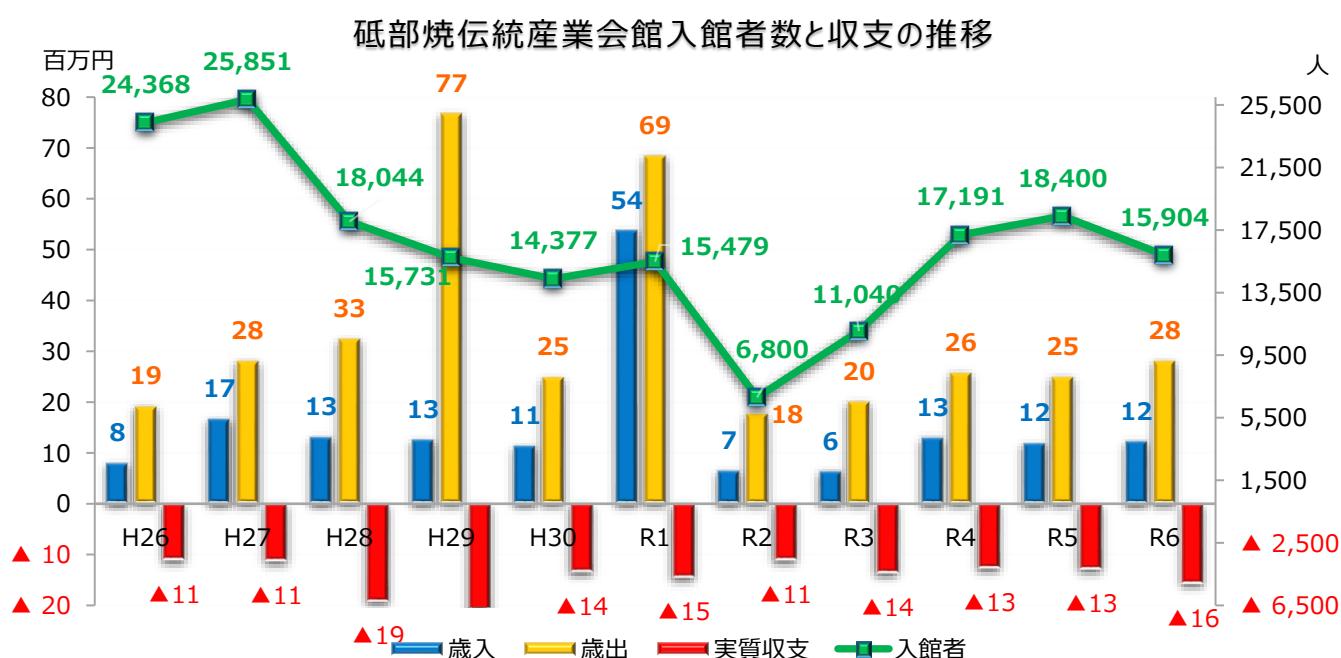
5. 砥部町陶芸創作館の再編方針

5.1. 方針

砥部焼伝統産業会館と統合（機能集約）し、経営改善と集客力の向上を図ることで、地場産業である砥部焼の振興をより効率化・強化する。

5.2. 現状分析と課題

- 二重運営の非効率性：陶芸創作館（赤字約 1,292 万円）および伝統産業会館（赤字約 1,584 万円）とともに厳しい経営状況にある。



5.3. 検討の経緯

- 平成 29 年度に 2 F の販売スペースを 1 F への集約を実施。
- 令和 5 年度より、第 2 次集中改革プランにて検討を開始。

5.4. 今後の方向性

- 施設の活用**：後継者等へ有償で貸出し又は他用途へ転用を検討。

陶芸創作館



砥部焼伝統産業会館



参考資料

投資的経費予定額

単位：千円

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	合計
工事	777,708	838,145	238,146	325,950	140,000	2,319,949
委託	52,320	43,978	57,000	13,000	3,000	169,298
財産	10,000	45,000	0	0	0	55,000
繰出金	212,644	259,820	223,960	225,025	288,552	1,210,001
合計	1,052,672	1,186,943	519,106	563,975	431,552	3,754,248

【上記の内、主要事業】

- ・文化会館舞台機構設備改修事業（R8～R9）237,196千円
- ・小中学校屋内運動場空調設備設置事業（R8～R9）382,644千円
- ・高尾田雨水排水施設整備事業（R8～R10）670,000千円
- ・小学校トイレ改修事業（R10～R12）245,379千円
- ・公共施設 LED 照明リース事業（R9～R12）120,000千円

【令和13年度以降、将来的な検討課題】

- ・道路や橋りょう、上下水道等のインフラ設備の更新
- ・小学校校舎、庁舎等の大型施設の更新

問い合わせ先

砥部町企画財政課 契約資産係

〒791-2195 愛媛県伊予郡砥部町宮内 1392 番地

電話番号：089-909-4670

FAX：089-962-4277